

## II. 資料

- 資料1 日本の遠隔医療、基礎資料
- 資料2 研究班員
- 資料3 研究班活動記録

日本の遠隔医療、基礎資料

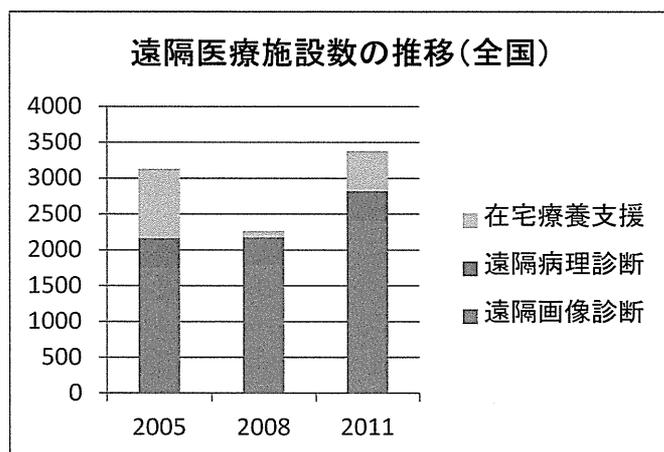
1. 遠隔医療の形態

- 1) 医療機関～医療機関
  - ① 専門医不足の医療機関に、高度医療機関等から支援を行う。（DtoD）
  - ② 高度医療機関が診察支援も行う。（DtoDtoP）
  - ③ 医療機関～患者宅
- 2) 診療所から在宅医療の患者の診療、訪問看護師の指導を行う。（DtoP, DtoN&P, DtoN）
- 3) 慢性疾患の管理を行う。（D/NtoP）
- 4) 医療機関～地域施設
- 5) 僻地・離島の「仮想診療所」

2. 遠隔医療一覧

具現化	     
地域展開中	   
実験的モデル	   .....

3. 実施施設数



年度	遠隔画像診断	遠隔病理診断	在宅療養支援
2005	1743	420	968
2008	1787	388	88
2011	2403	419	560

実施症例数ではなく、実施施設数

厚生労働統計より

#### 4. 遠隔医療に関する厚生労働省通知の経緯

- 1) 厚生省健政局通知「医師法の解釈通知」1997年12月24日
  - ・ 医師法で禁止されている「非対面診療」に相当しない。
- 2) 厚生省保険局発第30号 1998年3月16日
  - ・ テレビ画像を通じた再診に再診料請求を認めた。
- 3) 厚生省健政発第517号 1999年4月22日
  - ・ 診療録等の電子媒体による保存について（見読性、真正性、保存性）
- 4) 厚労省保険局第30号 2000年3月17日
  - ・ テレラジオロジーへの画像管理加算の支払い
  - ・ テレパソロジーへの術中迅速診断組織標本作製料の支払
- 5) 厚労省医政局通知0331020号 2003年3月31日
  - ・ 1997年12月24日の通知の改正
  - ・ 適用対象の別表が示された。（規制との勘違いが多かったが）
- 6) 厚労省医政局通知医政発0331第5号 2011年3月31日
  - ・ 2003年3月31日の通知を更に改正
  - ・ 適用対象の症例が7から9に増加。この症例もサンプルと明記
  - ・ 適用対象の制限や地域制限が無くなった。
  - ・ <http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryuu/johoka/dl/h23.pdf>

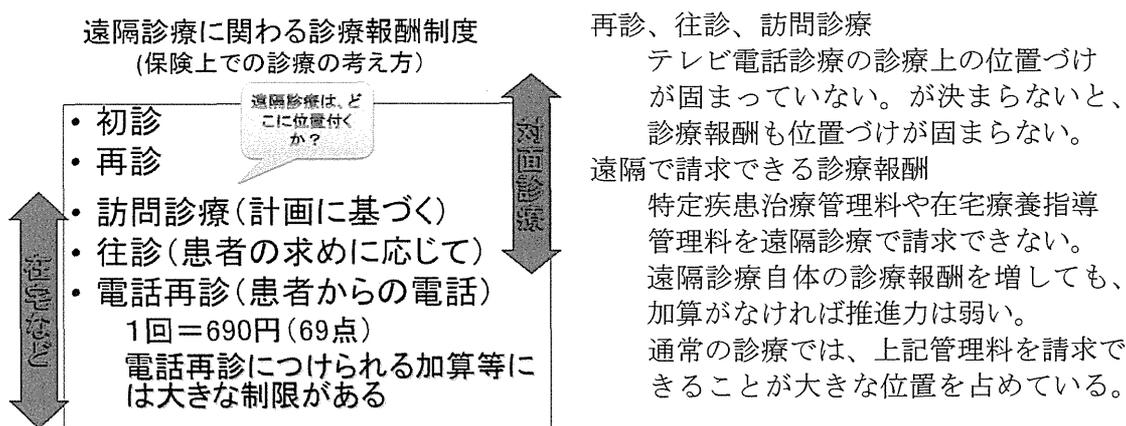
#### 5. 遠隔医療推進政策の動向

- 1) 平成12年度補正事業（経済産業省）
  - ① 先進的情報技術活用型医療機関等ネットワーク化推進事業
  - ② 国内に複数箇所の地域医療ネットワークの種子を蒔いた。
  - ③ K-MIX, わかしおネットワークなど、現在も続くメジャーなネットワークが誕生した。
- 2) IT新改革戦略（IT戦略本部、首相官邸、平成19年1月19日）
  - ① 遠隔医療の重要性を宣言
- 3) 遠隔医療推進のための懇談会（総務省・厚生労働省 2008年度）
  - ① 地域ICT利活用事業などが開花
- 4) 規制・制度改革に係る対処方針（平成22年6月18日閣議決定）
  - ① 遠隔医療が認められ得るべき要件及び処方せんの発行にかかる考え方を明確化する。＜遠隔医療が認められ得るべき要件については平成22年度中措置、処方せんの発行にかかる考え方については平成23年度中に結論＞
  - ② 診療報酬上の手当については、安全性・有効性等についてエビデンスが得られた遠隔医療について、順次検討し、結論を得る。＜診療報酬改定のタイミングで随時＞
- 5) 規制改革推進会議（2013年6月5日 資料公開）
  - ① 対面診療と組み合わせた遠隔診療において、安全性、有効性等についてのエビデンスが得られたものから、特定疾患治療管理料、在宅療養指導管理料等について診療報酬の算定を認めることを中央社会保険医療協議会において検討する。また、遠隔診療を行う際に処方せん料の算定が可能となる場合を明確化する。
  - ② 心臓ペースメーカーの遠隔モニタリングにおける診療報酬は、4か月に1度、対面診療を行った際に算定されることとなっているが、遠隔モニタリングによって病状の確認が可能であることから、4か月に1度の診療は不要であるとの指摘がある。したがって、心臓ペースメーカー指導管理料（遠隔モニタリングによる場合）については、安全性、有効性等についてのエビデンスが得られていることを確認した上で、対面診療を行うべき間隔を延長すること、

併せて、一定期間ごとに分割しての算定を可能とすること等を中央社会保険医療協議会において検討する。

- 6) 世界最先端 I T 国家創造宣言
- ① 「次世代放送サービスの実現による映像産業分野の新事業創出、適切な地域医療・介護等の提供、健康増進等を通じた健康長寿社会の実現」の検討が課題となっている。
  - ② 4K, 8Kテレビの遠隔医療への活用の課題が挙げられている。
- 7) 中央社会保険医療協議会 総会（第264回 2013年12月11日）
- ① 個別事項（その6:明細書の発行、技術的事項）について
  - ② 遠隔診療に関する初の説明（次ページに資料）

## 6. 遠隔医療の診療報酬



- ・ DtoN, P 遠隔診療（外来診療料ではない）
  - 再診料 A001（電話再診扱い）
- ・ DtoD 遠隔医療（テレラジオロジー）
  - 画像管理加算 1（E001, E004, E102, E203）
  - 画像管理加算 2（E102, E203）
  - 画像診断料の解説の中に遠隔医療に関する記述は無い。
- ・ DtoD 遠隔医療（テレパソロジー）
  - 術中迅速病理組織標本作製（N003）
  - 術中迅速細胞診（N003-2）
- ・ D, NtoP 喘息治療管理料
  - 特定疾患治療管理料（B001, 16）
  - 重度喘息である20歳以上の患者
- ・ DtoD ホルター心電図検査（D210）
- ・ D, NtoP 心臓ペースメーカー指導管理料
  - 特定疾患治療管理料（B001, 12）遠隔モニタリングによる場合
- ・ DtoDtoP 眼科検査
  - 精密眼底検査（D255）
  - 汎網膜硝子体検査（D255-2）
  - 眼底カメラ撮影（D256）
  - 細隙燈顕微鏡検査（D257）

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）  
平成26年度研究 総合報告書

7. H24-特別-指定-035より遠隔医療の現状と課題（詳細）

対象	現状	課題	目標	手段
総合課題	厚労科研班他の諸団より、少しずつエビデンスが蓄積されてきた。	1.地域特性を顧みない遠隔医療の取り組み 2.実施施設・件数が捉えられていない。 3.医師法20条の解釈の周知が不十分。 4.制度改定の道のりの検討不足。 5.全体的に盛り上がっていない。 6.企業と医療者の認識ギャップが大きい。 7.地方行政での活用が低い。 8.ITの中で、診療（遠隔医療）と情報共有（EHR）が別との理解が薄い。	1.実態の把握 2.法や制度の実情の広報 3.人材育成（医療者、行政、企業） 4.関係領域の専門家の結集 5.臨床研究の実施 6.実態に合う事業スキーム 7.遠隔医療を先導できる企業の育成	1.実態調査 2.政府主導のワーキンググループ
テレラジオロジー	1.全国2403施設で実施（2011年度厚労統計調査、2005年は1743施設） 2.遠隔医療の中で最も普及している。 3.診療報酬として画像管理加算2を遠隔医療向けに請求できる。（遠隔医療の施設基準もある。商用事業者は不可） 4.装置を廉価に入手できる。 5.商用事業者も多数活動している。 6.画像診断の質の担保が不明 7.関係団体は日本医学放射線学会、商用事業者団体（結成中） 8.日本医学放射線学会でGLを作成した。	1.画像管理加算2と画像診断料で報酬が賄われるが、診療情報としての実施件数は不明。 2.厚労統計は、アンケートによる実施施設数のみ調査（画像管理加算2の施設とは限らない）。 3.報酬が按分によるので不安定 4.質の担保が不明、診断結果への不満もある。	1.実施施設数と実施件数の把握 2.質を担保する仕組みの確立と普及 3.遠隔医療に適した診療報酬の配分手法	1.専門集団での質保証の仕組みの検討 2.実施の実態を捉える新たな仕組みの検討
テレパソロジー	1.全国419施設で実施（2011年度厚労統計調査、2005年は420施設） 2.遠隔医療の中で最も普及している。 3.術中迅速診断で用いられ、術中迅速病理標本作製料を報酬請求できる。 4.実施件数が捉えられない。 5.医師不足が非常に深刻 6.装置は高価 7.病理料を標榜した開業が可能になった。 8.関係団体は病理学会および日本テレパソロジー・バーチャルマイクロコピー研究会 9.同研究会でGLを作成した。	1.医師不足が非常に深刻。 2.標本作り、診断、実施時間調整等で、医師や技師の時間や負担を要する。遠隔医療による効率向上は病理医の移動の前向き。 3.術中迅速標本作製料の施設基準では、個人開業の病理科での遠隔医療の請求ができない。 4.術中迅速診断標本作製料の中で、診療情報としての遠隔医療件数は捉えられない。 5.厚労統計は、アンケートによる実施施設数のみの調査。 6.報酬が按分によるので不安定。 7.病理医以外の術中迅速診断が多い。	1.実施施設数と実施件数の把握 2.遠隔医療に適した診療報酬の配分手法 3.医師不足の緩和（病理医を希望する若手医師を増やす） 4.運用コストの改善	1.病理医を増やすインセンティブ作り 2.実施の実態を捉える新たな仕組みの検討
遠隔診療	1.実施施設数や実施件数が捉えられない。 2.実施に着手する施設が増えている。 3.診療報酬が電話等再診に含まれている。	1.臨床現場への広報が不十分。 2.電話等再診の制限が大きく、加算や処方ができない。 3.企業と医療者の認識のずれが大きい。	1.電話等再診と分離して、独立した再診にする。 2.実施件数を把握的できる。	1.電話再診を越える効果の実証試験 2.実施の実態を捉える新たな仕組みの検討（レセ電算コードへの遠隔医療のコード付与等）
モニタリング	1.血圧測定、呼気量測定、血糖値測定、心電図計測、ペースメーカー監視などの技術的手段の発展が著しい。 2.喘息治療管理料と心臓ペースメーカー指導管理料の請求ができる。	1.モニタリングの診療上の位置づけが定まっていけない。 2.エビデンスが不足 3.保健・医療・介護が異なる制度下にあるとの理解が薄い。	1.診療上の位置づけ（医療形態）の確立 2.各専門学会等でのエビデンスの集積	1.関連学会との意識合わせへの着手

8. 遠隔医療のガイドライン

- 1) 社会的に広めるには、実施の手引き（ガイドライン）が必須
  - ① 適用対象、適用条件、離脱条件、有効性と安全性などを明確に示す必要がある。
  - ② 下記が、これまでに示されたガイドラインである。
- 2) テレラジオロジー：医学放射線学会編
  - ① <http://www.radiology.jp/modules/news/article.php?storyid=816>
- 3) テレパソロジー：日本テレパソロジー・バーチャルマイクロコピー研究会編
  - ① [http://telepathology.iwate-med.jp/telepathology\\_guide2010.pdf](http://telepathology.iwate-med.jp/telepathology_guide2010.pdf)
- 4) 日本遠隔医療学会「遠隔診療 通知・指針」
  - ① [http://jtta.umin.jp/frame/j\\_14.html](http://jtta.umin.jp/frame/j_14.html)
  - ② 在宅医療（訪問診療）への適用のための指針である。
- 5) 医の倫理（遠隔医療）：日本遠隔医療学会（日本医師会HP）
  - ① <http://www.med.or.jp/doctor/member/001014.html>
  - ② 遠隔医療はまだ新しい手段であり、医の倫理が十分確立されているとは言えない。
  - ③ 提供者（医療者）として考えるべき事項をまとめた指針である。

## 9. 他国の状況

### 1) 米国

- 診療報酬請求対象の遠隔診療所がある。
- 米国は国土が広大で、「認定医師不足地域(Health Professional Shortage Area:HPSA)があり、そこでの実施に対して、診療報酬 (Medicare/Medicaid) が支払われる。
- モニタリング＝テレナーシングの取り組み例は多い。
  - 保険者による慢性疾患管理、重症化予防である。
  - 糖尿病や高血圧の在宅指導を看護師が実施
- CMS(Center for Medicare and Medicaid Services)によれば、遠隔医療の位置づけは大きくない。(全診療報酬の2~3%以下)

### 2) 欧州

- 米国のような遠隔診療所、日本のような在宅医療でのテレビ電話診療は無い。NtoPのトライアルはある。
- 国によるが、テレラジオロジーなどの取り組みは少なくないと考えられる。

### 3) 概況

- ① 日本が世界に比べて遅れているわけではない。各国とも苦勞していると考えられる。

## 資料2 研究班員

1. 主任研究者  
酒巻哲夫 群馬大学
2. 分担研究者  
吉田晃敏 旭川医科大学  
小笠原敏浩 岩手県立大船渡病院  
郡 隆之 利根中央病院  
斉藤勇一郎 群馬大学  
煎本正博 イリモトメディカル  
大熊由紀子 国際医療福祉大学  
松井英男 川崎高津クリニック  
小笠原文雄 小笠原内科  
石塚達夫 岐阜大学  
森田浩之 岐阜大学  
土橋康成 ルイパスツール研究センター  
辻 正次 兵庫県立大学大学院  
岡田宏基 香川大学  
太田隆正 太田病院  
中島直樹 九州大学医学部付属病院  
本多正幸 長崎大学病院
3. 研究協力者（常勤）  
守屋 潔 旭川医科大学  
長谷川高志 群馬大学医学部付属病院（研究班事務局）
4. 研究協力者（情報提供者）  
酒井博司 名寄市立総合病院（北海道）  
武政文彦 東和薬局（岩手県）  
鈴木亮二 群馬大学医学部付属病院（群馬県）  
井下秀樹 香川県庁（香川県）  
宮崎芳子 香川県庁（香川県）  
琴岡憲彦 佐賀大学（佐賀県）
5. 研究協力者  
石井安彦 北海道庁（北海道）  
武藤 健 北海道庁（北海道）  
酒井博司 名寄市立総合病院（北海道）  
野原 勝 岩手県庁（岩手県）  
小野寺志保 岩手県庁（岩手県）  
小川晃子 岩手県立大学（岩手県）  
鎌田弘之 盛岡赤十字病院（岩手県）  
武政文彦 東和薬局（岩手県）  
谷合久憲 本荘第一病院（秋田県）  
中山雅晴 東北大学（東北大学）  
鈴木亮二 群馬大学医学部付属病院（群馬県）

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）  
平成26年度研究 総合報告書

瀧澤清美	群馬大学医学部付属病院（群馬県）
大木里美	遠隔医療をとことん考える会（埼玉県）
真中哲之	東京女子医科大学（東京都）
三浦稚郁子	榊原記念病院（東京都）
三浦宏之	（株）プラスヴォイス（東京都）
野々木 宏	静岡県立総合病院（静岡県）
木村久美子	小笠原内科（岐阜県）
山口義生	阿新診療所（岡山県）
竹迫和美	日本遠隔医療学会遠隔医療通訳分科会（大阪府）
井下秀樹	香川県庁（香川県）
宮崎芳子	香川県庁（香川県）
琴岡憲彦	佐賀大学（佐賀県）
吉嶺裕之	井上病院（長崎県）

### 資料3 研究班活動記録

2013年8月10日	第一回研究班全体会議（東京）	
2013年8月19日 ～23日	MEDINFO2013（コペンハーゲン）	酒巻哲夫, 岡田宏基, 郡隆之
2013年10月3日	研究班小会議（WEB会議）	酒巻哲夫, 中島直樹, 長谷川高志
2013年10月19日 ～20日	日本遠隔医療学会学術総会、厚生労働科学研究報告会	
2013年10月31日	研究班小会議（WEB会議）	酒巻哲夫, 岡田宏基, 長谷川高志
2013年11月1日	研究班小会議	酒巻哲夫, 斉藤勇一郎, 長谷川高志
2013年11月6日	研究班小会議	煎本正博, 長谷川高志
2013年11月21日	医療情報学連合大会、 厚労科研企画、JAMI/JTTA共同シンポジウム（チーム医療）	
2013年12月4日	研究班小会議（WEB会議）	酒巻哲夫, 小笠原敏浩, 長谷川高志
2013年12月11日 ～12日	北海道庁、名寄市立総合病院訪問調査	長谷川高志, 守屋潔
2013年12月18日	岩手県庁訪問調査	長谷川高志
2013年12月20日	山形県庁訪問調査	長谷川高志
2013年12月24日	山形県庁訪問調査	長谷川高志
2014年1月7日	岡山県庁訪問調査	長谷川高志
2014年2月5日	研究班小会議（WEB会議）	酒巻哲夫, 岡田宏基, 石塚達夫、 森田浩之, 郡隆之, 長谷川高志
2014年2月7日	長崎県庁訪問調査	酒巻哲夫, 長谷川高志
2014年2月13日	岐阜県庁訪問調査	長谷川高志
2014年2月21日～22日	日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2014 21日 厚労科研報告会（1）、第二回全体班会議 22日 厚労科研報告会（2）	
2014年3月1日～2日	第16回日本在宅医学会総会	酒巻哲夫, 郡隆之, 長谷川高志

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）  
平成26年度研究 総合報告書

- 2014年6月4日 第一回研究班会議（岡山県岡山市）
- 2014年6月13日 第16回日本医療マネジメント学会学術総会（岡山県岡山市）  
～14日
- 2014年8月16日 第二回研究班会議（東京都中央区）
- 2014年8月23日 第一回遠隔医療をとことん考える会（埼玉県本庄市）
- 2014年8月29日 第13回テレパソロジー研究会（青森県青森市）  
～30日
- 2014年9月12日 国立保険医療科学院地域医療情報コーディネータ研修  
（埼玉県志木市）
- 2014年10月3日 第27回日本内視鏡外科学会学術総会（岩手県盛岡市）  
～4日
- 2014年10月25日 第18回日本遠隔医療学会学術総会および第一回全体班会議  
～26日（長崎県長崎市）
- 2014年11月6日 第34回日本医療情報学会学術総会および第3回班会議  
～8日（千葉県千葉市）
- 2014年11月14日 厚生労働省事業遠隔医療従事者研修（東京都千代田区）  
～16日
- 2014年11月28日 厚生労働省事業遠隔医療従事者研修（大阪府）  
～30日
- 2015年1月18日 ICTによる見守り、平田プロジェクト会議（岩手県花巻市）
- 2015年1月24日 第二回遠隔医療をとことん考える会（埼玉県本庄市）
- 2015年2月9日 第二回未来技術特区懇談会（東京都千代田区）
- 2015年2月12日 香川県オリーブナース研修（遠隔医療従事者研修）（香川県高松市）
- 2015年2月14日 岩手医大研修（遠隔医療従事者研修）（岩手県盛岡市）
- 2015年2月20日 日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2015  
～21日 および第二回全体班会議（東京都文京区）

## Ⅲ. 研究成果

資料 4 論文、講演等一覧表

## 資料4 論文、講演等一覧表

### （1）国内学会投稿・発表

1. 長谷川 高志 酒巻 哲夫 齋藤 勇一郎. 遠隔医療の更なる普及・拡大方策の検討のための調査研究、日本遠隔医療学会雑誌 9(2), 118-121, 2013-10
2. 長谷川高志、酒巻哲夫、郡隆之他. 訪問診療における遠隔診療の効果に関する多施設前向き研究、日本遠隔医療学会雑誌 8(2), 205-208, 2012-10
3. 郡隆之, 酒巻哲夫, 長谷川高志他. 訪問診療における遠隔診療の事象発生、移動時間、QOLに関する症例比較多施設前向き研究、日本遠隔医療学会雑誌 9(2), 110-113, 2013-10
4. 長谷川高志、酒巻哲夫、本多正幸他、遠隔医療の普及手段を考えるー現場医療者の遠隔医療スキルの育成ー、第33回医療情報学連合大会論文集、66-69、2013-11
5. 酒井博司、道北北部医療連携ネットワーク(ポラリスネットワーク)を用いた遠隔救急トリアージの試み、日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2014抄録集、7, 2014-02
6. 守屋 潔、北海道における眼科遠隔医療の取り組み、日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2014抄録集、8, 2014-02
7. 長谷川高志、今年度の研究概要、日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2014抄録集、10, 2014-02
8. 岡田宏基、呼吸器疾患の遠隔医療、日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2014抄録集、11, 2014-02
9. 齋藤勇一郎、循環器疾患における遠隔モニタリングの現状、日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2014抄録集、13, 2014-02
10. 長谷川高志、遠隔医療の総合課題（地域調査より）、日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2014抄録集、18, 2014-02
11. 中島直樹、糖尿病の遠隔医療、日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2014抄録集、19, 2014-02

録集、19, 2014-02

1 2. 琴岡憲彦、慢性心不全診療における遠隔モニタリングの役割：多職種協働とPerson-Centered Care、日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2014抄録集、20, 2014-02

1 3. 郡隆之，酒巻哲夫，長谷川高志他. 遠隔医療を併用した訪問診療の安全性と有効性の評価に関する多施設前向き研究、第16回日本在宅医学会総会抄録集、232, 2014-03

1 4. 長谷川高志、郡隆之，酒巻哲夫他. 厚生労働科学研究による在宅医療へのIT活用の事例調査（遠隔医療、情報共有システム）、第16回日本在宅医学会総会抄録集、291, 2014-03

1 5. 長谷川 高志 酒巻 哲夫 齋藤 勇一郎. 遠隔医療の更なる普及・拡大方策の検討のための調査研究、- 2013 年度厚生労働科学研究成果報告-. 日本遠隔医療学会雑誌 10(2), 234-237, 2014-10

1 6. 煎本正博, 石垣 武男. 社団法人遠隔画像診断サービス連合会の活動. 日本遠隔医療学会雑誌 10(2), 238-239, 2014-10

1 7. 鈴木 逸弘. 遠隔医療と人口減社会 ～岡山県新見市を取材して～  
竹迫和美他. 遠隔医療通訳のデモンストレーションと有用性の確認（遠隔医療通訳分科会報告），日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2015抄録集

1 8. 瀧澤清美他. 言葉の壁を持つ患者さんへの医療通訳支援を提供する取り組み報告, 日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2015抄録集

1 9. 三浦宏之他. 医療へのアクセスの改善、手話によるテレビ会議を用いた新たな取り組み, 日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2015抄録集

2 0. 長谷川高志他. 遠隔医療の更なる普及・拡大方策の研究、厚生労働科学研究平成26年度、日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2015抄録集

2 1. 吉嶺裕之他. 海外在留邦人の睡眠呼吸障害（SDB）の現状とその対策, 日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2015抄録集

2 2. 長谷川高志他. 厚生労働省事業「遠隔医療従事者研修」実施報告, 日本遠隔医療学会

スプリングカンファレンス2015抄録集

23. 谷合久憲他。研修参加者報告「地域医療の現実の課題に、遠隔医療を適用する手法は定式化されたか」, 日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2015抄録集

## （2）国際学会発表

Takayuki Kohri, Tetsuo Sakamaki, Takashi Hasegawa et. al. Prospective multicenter case-control study of telemedicine for home medical care , MEDINFO2013, 2013-08

厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業

「遠隔医療の更なる普及・拡大方策の研究」

(H25-医療-指定-009)

研究班 事務局

群馬大学医学部附属病院 システム統合センター

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町3丁目39-15

Tel: 027-220-8771 FAX: 027-220-8770

<http://plaza.umin.ac.jp/~tm-research/>

e-mail: [telemed-research@umin.ac.jp](mailto:telemed-research@umin.ac.jp)

